

2017年グリーンコープの全エリアで利用開始

○2017年1月より九州エリア供給開始 ○2017年4月より中国・関西エリア供給開始予定

原発のない社会の実現のために グリーンコープでんきに 参加しよう!



いのちと原発は共存できないと考え、1986年に起きたチェルノブイリ原発事故からずっと原発のない社会の実現を願って、グリーンコープではさまざまな脱原発運動を行ってきました。しかし、2011年に東京電力福島第一原発で事故が起こり、広域に放射能汚染が広がりました。

二度と原発事故を起こしてはならない、脱原発社会実現のために具体的な行動を起こそうと決意し、グリーンコープでは組合員に出資を募って、自然エネルギーによる発電所づくりを始めました。

そして2016年4月の電気の小売完全自由化を受けて、9月から原発フリーを目指す電気の共同購入を開始しました。今年1月からは九州全エリアへの供給がスタートし、1月9日現在、1448人の組合員が利用しています。2月には、中国・関西エリアでの申し込み受付が始まり、4月にはグリーンコープ全エリアでの供給が実現します。供給開始に向けて、中国・関西エリアの理事長の思いを紹介します。

多くの組合員がグリーンコープでんきを利用することによって、原発フリーの電気の供給実現が可能になります。原発をなくしたいという願いの実現のために、さらに組合員の力を結集しましょう。

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2017 2月

■発行：グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

Contents

グリーンコープでんき 供給開始に向けた 理事長の思い	1・2
酪農生産者交流会	3
遺伝子組み換えを巡る 問題点と グリーンコープの取り組み	4・5
熊本地震被災地支援報告 子ども支援 ネパールカンパ報告	6
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協ふくおか 神田 美栄子さん	7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

おおさか



理事長
山田 由美 さん

自分の家の電気を考えるというところで、理事会メンバーで電気の検針票を持ち寄りしました。グリーンコープでんきに切り替えた場合をシミュレーションして、多くの人が現在の料金と変わらないと分かり、安心しました。この2月から、「でんきことはじめ」と銘打って、学習会などを通して知ったことや感じたこと、疑問に思っていることを自由に話しあえる場

を設けていきます。組合員同士で、自分たちの暮らしに欠かせない電気のことを、より身近に考えられる柔らかい入り口にしたいと考えています。活動組合員からスタートして、地域の組合員にも参加してもらえれば機会を広げていきます。原発事故の怖さは誰もが感じていて、苦しんでいる人たちの姿に、自分ができることは何かと考えている人も多いはずで、グリーンコープでんきを利用することで脱原発に向かつて一歩ずつ進んでいくことができると思います。

ひょうご



理事長
山本 陽子 さん

電気の共同購入に取り組みかどうかについて検討を始めるにあたり、まずは電気について学ぼうと、世界の状況や電気のしくみについての話を聞く機会を持ちました。理事会メンバーが心からやりたいと思えないと周りの組合員に語ることはできないと思います。学習の場では疑問に思っていることを出しあい、不安の解消に努めました。時間をかけて検討し、12月に電

気の共同購入の供給開始を2017年4月と決めました。エリア内には、2016年7月末に完成した平池水上太陽光発電所があります。グリーンコープの発電所を身近に感じながら、「グリーンコープでんき始まるよ」とみんなで事あるごとに伝えていこうと話しています。グリーンコープは、原発のない社会をつくるべく、何を目標としていくことを目指しています。何を選ぶかで将来が変わります。子どもを思うお母さんの力は強く大きいはず。目先のことで判断するのではなく、子どもたちの未来を考えようと思っています。

グリーンコープ生協ひょうご理事会主催 「平池水上太陽光発電所」 竣工記念講演会

2016年10月12日



講師：飯田 哲也さん
認定NPO法人環境エネルギー政策研究所 所長

飯田哲也さんの講演では、「日本では2011年の原発事故後、全国で次々と地域の自然を活かした発電が広がっている。この夏、節電の努力と、特に太陽光発電の広がり(伸び)によって、原発がほとんど稼働していない中でも電力は十分に足りている。不安定だと言われてきた太陽光や風力発電は、人間の知恵と技術の進歩によって世界中で急激に拡大している」と急速に自然エネルギーへシフトしている現状が紹介されました。

また、参加した他単協からは、「組合員同士での会話を重ねることによって、脱原発への思いを託す発電所づくりに出資する組合員が徐々に増えてきている」「温泉熱や小水力などを活用して地元の活性化につなげたいと願う地域の人々との出会いが、発電所づくりを進めていく力になった」など、組合員が積極的に取り組んでいる様子が報告されました。

チェック!

原発のない社会を目指した「グリーンコープでんき」をみんなで利用しようね。テレビコマーシャルがホームページで見れるよ!



おかやま



理事長 堀 早織 さん

九州エリアで、生命(いのち)を大切に... 九州エリアで、生命(いのち)を大切に... 九州エリアで、生命(いのち)を大切に...

2月から3月にかけてエリ... 2月から3月にかけてエリ... 2月から3月にかけてエリ...

ひろしま



理事長 熊野 千恵美 さん

グリーンコープとして市民... グリーンコープとして市民... グリーンコープとして市民...

今後、組合員が集まる場... 今後、組合員が集まる場... 今後、組合員が集まる場...

とっとり



理事長 小椋 あけみ さん

隣の島根県には原発が... 隣の島根県には原発が... 隣の島根県には原発が...

2016年度は仲間を... 2016年度は仲間を... 2016年度は仲間を...

(島根)



理事長 定本 さゆり さん

2016年10月に鳥取で地... 2016年10月に鳥取で地... 2016年10月に鳥取で地...

(島根)の理事会ではグリ... (島根)の理事会ではグリ... (島根)の理事会ではグリ...

やまぐち



理事長 佐々木 春代 さん

4月からの供給開始... 4月からの供給開始... 4月からの供給開始...

各地域で電気の共同... 各地域で電気の共同... 各地域で電気の共同...



No.102

原発事故の「教訓」を活かすために

2011年3月11日、東京電力福島第一原発事故の「教訓」とは何だったのでしょうか。

原発事故から6年が経とうとしている今も、原子力規制委員会は原発の再稼働ありきで進めています。

スリーマイル島、チェルノブイリ、福島第一原発などの重大事故が起こった後に、自国での重大事故が無くとも脱原発へ舵を切った国がある中、日本は原発事故を経験したにも関わらず、未だ「教訓」を活かしきれていません。

グリーンコープは「電気の選び方が未来を変える」を合言葉に「グリーンコープでんきの共同購入」運動をすすめ、「脱原発社会」に向かう扉を大きく力強く開いていきます。

グリーンコープ共同体組織委員会



グリーンコープ・グリーン電力出資金 11,672人 1,061,913,000円 (2016年12月24日現在)

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2016年11月の売電量

神在太陽光発電所 売電量 73,330kWh

平池水上太陽光発電所 売電量 95,621kWh

若宮物流センター 太陽光発電所売電量 2,452kWh

広島物流センター 太陽光発電所売電量 3,305kWh

グリーンコープやまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所売電量 3,466kWh



グリーンコープでは毎年2回、産直びん牛乳の産地を組合員が訪ね、酪農生産者との交流を重ねています。しかし4月に起きた熊本地震の影響で5月に予定していた1回目の交流会は中止になりました。また、子どもたちが参加する夏休みの酪農ホームステイも開催できませんでした。2016年度初めての交流会は11月16日に熊本県菊池市で開かれ、組合員・生産者・メーカー担当者など39人が参加しました。

交流会では、各単協で集められた母牛の乳房を拭くタオルとメッセージを贈り、タオルを洗うためのせっけんも手渡しました。交流会のようすと午後の牛舎見学について報告します。

生産者と交流して 産直びん牛乳の おいしさのひみつを知る

交流会は、共同体商品おすすめ委員長藤原秋代さんの挨拶で始まり、2016年度の商品おすすめ委員会では、毎回各単協の産直びん牛乳の取り組みを共有し、利用普及にむけて力強く活動しています。7月には、組合員らしいやわらかい言葉で、産直びん牛乳の良さを伝えるリーフレットを作りました。各単協で利用普及に活用しています。利用が低迷し危機的状況が続いていますが、今日の交流会で聞き取った生産者の皆さんの思いを、これからの利用普及の取り組みに活かしたいと思います。



リーフレットを紹介する 共同体商品おすすめ委員長 藤原秋代さん

熊本地震を乗り越えて

non-GM牛乳生産者委員長の梁池久芳さんは、熊本地震の際、グ

リーンコープが届けた義援金のお礼を述べ、「地震直後は、牛舎が倒壊したり、集乳ができず、やむを得ず生乳を廃棄した生産者もいたり、大変な状況がありました。残念ながら1戸が廃業しましたが、7ヶ月経った今は22戸の生産者で生乳を生産しています」と現状を伝えました。

製造メーカーの雪印メグミルク(株)の吉丸敦さんは、震災直後の非常に混乱した状況にもかかわらず、生産者と生産者団体の尽力で、生乳が届いたことへの感謝の言葉を述べました。



タオルの目録と せっけんの贈呈
タオル1万8416枚、「お洗濯のしゃぼんウォッシュアップ1.5kg」44個を贈りました。
酪農生産者 永田 薫さん(右) 石田 志穂さん(中央) ぶくおか 坂本真由美さん(左)



くまもと

秋の組合員交流会で使った牛乳クイズを披露しました。

さがからは「産直びん牛乳の殺菌方法や組合員の利用量の推移を伝え、生産者が安心して牛を育て生乳を出荷するためには、消費量が安定することが大切。ぜひ予約をお願いします」と訴えています。

さが

各単協の工夫を凝らした びん牛乳アピールの報告

を着て試飲をすすめ、おいしさと良さを伝えていきます」と元気にアピール。他の単協では、牛乳レシビを案内するなど工夫を凝らしたチラシやリーフレットを作り、まだ利用していない組合員にアドバイスをしたり、新しく予約をした組合員にはプレゼントを用意するなど、産直びん牛乳の利用普及と予約の取り組みに年間を通して力を入れているようすと共有しました。

松岡明彦さんの牛舎 一日の乳量3.5t (有)パインヒル 搾乳牛120頭、育成牛100頭を飼育

生産者のご厚意により、午後は、参加者が2グループに分かれ、松岡さんと西本さんの牛舎を見学しました。

牛舎で熱心に話を聞く 共同体商品おすすめ委員会メンバー

酪農生産者松岡明彦さんに聞きました!

建てて6年目の牛舎です。鉄骨とコンクリートで作られていることもあり、地震の被害はほとんどありませんでした。家族と朝のアルバイトの4人で搾乳や牛の世話をしています。朝夕1日2回搾乳します。毎朝3時半に起きて4時前から搾乳を始めます。一度に12頭ずつしか搾乳できないので、120頭全部の搾乳が終わるのに2時間半かかります。搾乳前は、牛の乳房を組合員さんから贈られたタオルできれいに拭いてマッサージもしています。搾乳後には機械をお湯できれいに洗っています。牛糞を発酵させ、牛舎横の畑に肥料として撒きサイレージにするとうもろこしも育てています。もちろんnon-GMとうもろこしです。また、地震の影響で、生乳が3.5t入るミルクタンクの台座が壊れてしまいました。新しく6tのミルクタンクを購入し、ゆくゆくは搾乳牛を150頭まで増やしたいと思っています。

※飼料の一種。水分の多い青刈りとうもろこし、生草などをサイロに詰め、乳酸発酵させ貯蔵したもの

くまもとからは「イベント会場では牛の着ぐるみ」

各単協より届けられる組合員からのメッセージ集を生産者は楽しみにしています。

交流会最後に、かごしまの栗野照美さんが「実際に生産者の皆さんとお会いして生の声を聞き胸が熱くなりました。貴重な産直びん牛乳と同じように、自分が飲んでいる牛乳の生産者に会えるこの交流会も大変貴重で、これからもずっと交流を続けていきたいと思っています。私たちの産直びん牛乳を守りこれからも飲み続けていけるよう、本日伺った話を単協へ持ち帰り組合員へ伝え、利用普及に活かします」と締めくくりました。

生産者と組合員の 熱い思い

生産者を代表して、右田志穂さんは、「毎年組合員さんから届くタオルは、牛の乳房を拭くのに毎日使っています。たくさん使いたくので、汚れたらすぐ取り替えることができて助かっています。今年は4月の地震に始まり、豪雨や猛暑、阿蘇中岳の噴火と、心配事が尽きない1年となりました。特に牛は暑さに弱いので、夏は毎日水掛けを行い、牛舎を清潔に保つための床掃除も、汗を流しつつがんばりました。地震の時は、菊池地域でも牛舎が倒壊し、牛も犠牲になりました。ストレスで牛の発情が無かったり、流産もあり、来年、再来年の生乳生産への影響を心配しています。そんな中、皆さんの応援メッセージや義援金をいただき、本当にありがたうございました。

うございました。これからも元気な牛を育て、おいしい生乳を生産して皆さんへお届けできるように毎日がんばっていきまします」と思いを伝えました。



遺伝子組み換えを巡る問題点を 組合員と共有し、安心・安全な 食べものをさらに追求します

現在、遺伝子組み換え作物(GMO)の栽培は世界中に広がり、その面積は日本の国土の5倍とも言われています。しかし、その安全性は確認されておらず、人体や環境への影響が懸念されています。

食料自給率が低い日本は世界一のGMO輸入国と言われ、市場にはGMOを原料にした食品が大量に流通しています。しかし、食品表示制度が不十分なため、消費者はGMOを判別することができません。誰もが知らないうちに口にしている可能性が高いのです。

グリーンコープは予防原則の考え方で、取り扱う商品についてnon-GMOを追求しています。また、全国の同じ思いの仲間と共に遺伝子組み換え反対運動を続けています。2017年は、米国のGMO反対運動を推進する人々との出会いを通じ、情報を共有しながら、GMOをなくしていくための世論の大きなうねりをつくりたいと考えています。

「遺伝子組み換え」とは?

生物がもともと持っている遺伝子に別の生物の遺伝子を組み込むこと。「種の壁」を越えて人間に都合のいい遺伝子を組み込み、自然界では誕生することのない新しい性質を持つ生物を作り出す。これまでの品種改良とは大きく違う。

技術そのものと、それによってできたものの危険性、予測不可能なことが起きる可能性を指摘する専門家もいる。他の生物や環境、人体への影響も懸念される。



米国では、オーガニック認証やnon-GMO認定の商品にはマークがつけられ、ひと目で消費者に分かっている。スーパーマーケットで販売されている食品には、マークがつけられ、ひと目で消費者に分かっている。スーパーマーケットで販売されている食品には、マークがつけられ、ひと目で消費者に分かっている。

米国の高まる遺伝子組み換え反対運動

米国ではこの30年余り、モンサントと政府によって、GMOの栽培とGM技術開発が推進されました。市民の間でGM技術に対する懸念が芽生え、遺伝子組み換え反対運動と表示を義務化する法の制定を求め運動が徐々に広がっています。

2014年にバーモント州で表示義務化の州法が制定されると、メーカや小売業界では、全米規模での表示の統一が必要になりました。しかし、表示を義務化する法案を無効にする連邦法が成立したことで、バーモント州の州法は無化されてしまいました。

一方、消費者は食べものかどのようにならなければならないかを求める権利がある。「消費者がnon-GMO食品を選択することによってGMOをなくしていく」という市民の運動と実践は着実に広がってきています。

米国では、オーガニック認証やnon-GMO認定の商品にはマークがつけられ、ひと目で消費者に分かっている。スーパーマーケットで販売されている食品には、マークがつけられ、ひと目で消費者に分かっている。

今後、ゼンさんのをはじめとする米国の消費者運動と連帯し、情報を交換し、調査・研究結果を共有していきます。またGMOは人体・環境・健康に害があるということを社会に広く伝えることが、non-GMO食品を選択するという運動と実践をすすめていきます。

現在グリーンコープの3次原料は、2次原料・3次原料まで遡って可能な限りnon-GMOにこだわって作っています。今後は、さらにGMOを排除するレベルを上げていきます。具体的には、菓子類やビール等、食品に広く使われるコーンシロップ(果糖ブドウ糖液糖)をGMOトウモロコシ由来のものから、non-GMO由来のものに切り替えていくことの調査から始めていきます。容易ではありませんが、できることから一つひとつ取り組んでいきます。

消費者が、non-GMOを求めていけば、遺伝子組み換え反対運動の大きな力になり、GMOをなくしていくと考えています。



日本に輸入されている主な遺伝子組み換え作物

トウモロコシ、大豆、綿、ナタネ

GM.....遺伝子組み換え
GMO.....遺伝子組み換え作物
non-GMO.....遺伝子組み換えでない作物

GM食品表示の比較

日本の表示	EUの表示
食用油・糖類など例外が多い	全食品表示
原材料の重量上位3品目(重量比5%以上)のみに表示	微量成分まで表示
重量比5%以内は組み換え表示をしないでよい	0.9%以上は組み換え表示をしなければならぬ
レストランでの表示なし	レストランでもメニューに表示
飼料には表示義務なし	飼料も表示

輸入されているトウモロコシの約70%、大豆約80%、ナタネ約90%、綿約95%がGMOと、日本は多くの食品原料や畜産飼料の原料をGMOに頼っているのが現状です。

現在日本ではGMOの表示義務があるのは、厚生労働省が認可しているGMO(大豆、トウモロコシ、ジャガイモ、ナタネ、綿、テンサイ、アルファルファ、パパイアの8種)と、それらを原料とする加工食品33食品群です。しかし、原材料の重量上位3品目に入っていないければ表示義務はありません。また、上位3品目に入っていない5%以内なら表示義務がないなど、GMOの表示は不十分と言わざるを得ません。

原料がGMOでも、油製品や醤油などは組み込まれた遺伝子が検出されないことを理由に表示義務がないため、原料にGMOを使ったものが大量に流通しています。GMトウモロコシ・テンサイ等を原料にした食品添加物も増えています。

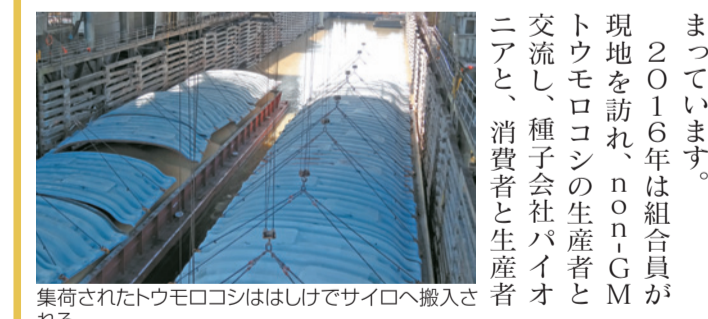
農薬が残っている!? GMOには

GMOは、主に除草剤耐性(除草剤をかけても枯れない)遺伝子が組み込まれているものと、殺虫性(食べた虫が死ぬ)遺伝子が組み込まれているものに分かれています。その両方が組み込まれているものに分かれています。

除草剤を散布するうち、除草剤をかけても枯れない雑草や殺虫性GMOのない雑草や殺虫性GMOが増えています。繰り返して除草剤を散布するうち、除草剤をかけても枯れない雑草や殺虫性GMOが増えています。繰り返して除草剤を散布するうち、除草剤をかけても枯れない雑草や殺虫性GMOが増えています。

日本でもGMナタネの自生が広がっている!

主にサラダ油(キャノーラ油)の原料として日本に輸入されたGMナタネの種が、輸入港の周辺や製油工場までの輸送ルートの中でこぼれ落ち、全国各地で自生しています。同じアブラナ科の雑草との交雑も確認されています。除草剤の使用が減少しているため、除草剤耐性GMOの出回りが増えています。除草剤耐性GMOの出回りが増えています。除草剤耐性GMOの出回りが増えています。



2016年9月18日 米国産PHF/non-GMOトウモロコシ現地視察報告

日本は畜産飼料の大半を輸入に頼っています。グリーンコープでは、生産者・メーカの大変な努力の末、産直びん牛乳の母牛や、産直肉、産直たまごの母鶏の飼料原料を、ほぼすべて、non-GMOに切り替えています。

近年、米国等の栽培国でGMOの作付が増え、non-GMOの作付が減っています。消費者と生産者を橋渡しする殺物集荷会社CGBを訪ねました。

ゼンさんは、3人の息子のアレルギー症状や自閉症の原因を追究する過程で、GMOやグリホサートの問題に取り組んでいる人々と出会いました。それを機に食生活を直し、non-GMO食品を買い、健康状態は改善に向かいました。同じように苦しむお母さんたちとネットワークをつくり、この問題に取り組んでいます。

米国では昨年9月に、予防接種ワクチンからグリホサートが検出され、食べものだけでなく、医療の分野にも大変な危険をもたらしていることに愕然としたと言います。早急な対応を政府に働きかけています。

2017年3月 ゼン・ハニーカットさん来日予定!

3月4・5日に佐賀市で開催される「第12回GMOフリーゾーン全国交流集会inさが」での講演と、福岡市・岡山市での学習会が予定されています。

米国でGM反対運動に取り組んでいる団体

マムズ アクロス アメリカ Moms Across America

専務理事 ゼン・ハニーカットさん Zen Honeycutt



除草剤ラウンドアップ(有効成分グリホサート)の危険性が明らかに

ラウンドアップは、モンサント(米国の種子会社)が1970年に開発した除草剤(農薬の一種)です。除草剤耐性GMOとセットで販売することになりました。GMOトウモロコシ・大豆・ナタネ・テンサイなどの耕作地でラウンドアップが大量に噴霧されています。米国政府は、ラウンドアップの有効成分であるグリホサートが飼料や食品に残留しているとして残留基準を設けました。しかし米国農務省は、食品のグリホサート残留検査は高額であることを理由に実施していません。モンサントはラウンドアップ使用の問題点についてはすべて否定しています。

問題を危惧する専門家・科学者などがヨーロッパや米国で調査したところ、ヒトの尿や母乳からグリホサートが検出されるなど、健康・環境へのリスクが徐々に明らかになってきました。2016年、WHO(世界保健機関)はグリホサートを、人に対して発がん性があるグループ2A(リスクの高い方から2番目に指定)しました。

GMナタネ自生調査報告院内学習会

市民と政府が意見交換できる場です。2016年10月20日、国会議員会館で「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」主催「GMナタネ自生調査報告院内学習会」が開催されました。くまもとは例年行っている自治体への要望書提出を、2016年度は地震の影響で一部のみ届けの予定であることを報告しました。

環境省・農林水産省からは、国で実施した自生ナタネの調査報告があり、GMナタネ、交雑について早急な対応が必要と認識して、いないこと、関係する企業には調査結果を伝えていくこと、今後も調査を継続していくとの報告がありました。

2016年10月7日、東京で開催された「すべての遺伝子組み換え食品に表示を求める署名提出院内学習会」において、2016年1月の提出に続き、第2次集約された61,284筆を消費者庁に届けました。

タネの自生・交雑の防止に関する要望書を提出し、福岡県や輸送会社への訪問も行って、くまももは報告しました。くまももは例年行っている自治体への要望書提出を、2016年度は地震の影響で一部のみ届けの予定であることを報告しました。

環境省・農林水産省からは、国で実施した自生ナタネの調査報告があり、GMナタネ、交雑について早急な対応が必要と認識して、いないこと、関係する企業には調査結果を伝えていくこと、今後も調査を継続していくとの報告がありました。

グリーンコープが行っている子どもたちへの支援

福岡市東区の城香中学校で餅つきを行いました



福岡市東区の城香中学校と相談し、2015年9月より毎週木曜日に、食育活動として始業前に産直びん牛乳やグリーンコープのパンメーカーで作るパン、ネグロスバナナやりんごを届ける取り組みを続けています。地域の組合員も取り組みに関わっており、中学生との交流も生まれています。その一環として、12月27日に、前年に続き「餅つき」を実施しました。学校法人グリーンコープ香椎照葉幼稚園の先生方に指導を受けながら、中学生とグリーンコープ関係者が一緒に8臼分の餅をつきました。小雨の中、中学生は元気よく大きな音を立てて餅をつき、時折楽しそうな笑い声も聞かれました。ついた餅は、社会福祉法人グリーンコープの在宅福祉ワーカーが準備したぜんざいに入れたり、きな粉やさとう醤油、大根おろしを付けたたり、あんもちにしたりと思いいいに味わいました。

熊本地震被災地支援報告

熊本地震被災地支援に継続して取り組んでいます



地震発生から9ヶ月経過しましたが、被災地の復興はまだまだ進んでいません。そのような中、仮設住宅やみなし仮設で暮らす皆さんや、被災地の子どもたちへ向けた支援を、必要に応じて継続して取り組んでいます。昨秋から始めている、仮設住宅のコミュニティづくりを支援する取り組みも続けています。仮設住宅の同居者同士の繋がりをつくっていくために、餅つきやしめ縄作りといった行事の実施や衣類のリサイクル市、必要な物資などの支援を続けています。加えて、精神的なケアも必要と考え、仮設住宅の皆さんを対象に臨床心理士によるカウンセリングの場や語り合えるサロンなども提供しています。大きなストレスを抱えている子どもたちにも喜んでもらえるように、小学校や学童保育、保育園、親子広場などへクリスマスプレゼントを届けたり、他団体の協力を

熊本地震災害救援金使途報告

2016年12月15日現在

熊本地震災害救援金にご協力ありがとうございます。救援金の合計とその使途についてご報告します。救援金(残金)は今後も支援活動に活かしていきます。

(単位:円)

カンパ金合計	136,516,556
支援費用項目	
物資	67,359,776
人件費	10,868,343
交通費	5,026,892
倉庫代	1,893,528
イベント費用	2,190,902
その他	2,483,316
支援費用合計	89,822,757
残金	46,693,799

下、えほんバスも運行しています。子どもたちが楽しめる映画の上映会なども続けてきました。加えて、買い物支援として始めた移動販売車も年末は29日まで、年明けも5日から巡回しています。他にも家屋の修理・片づけや見守り支援など、被災者の皆さんのニーズに沿った支援を続けています。



2015年4月に発生したネパール大地震の被災地支援も継続しています



ネパール大地震ではネパールの人口の約3割が被災し、山岳地帯も多いため、2年近く経っても復興がほとんど進んでいない状況が続いています。グリーンコープは、発生直後のカンパ金1947万円と2016年2月にカタログGreenから呼びかけて寄せ



られた277万円の合計2224万円を活用して、被災された皆さんの衣食住と仕事づくりのための支援を行っています。発生直後の650世帯への半年間の食料と防寒の緊急支援、住居支援。続いて、家畜(子ヤギ)の繁殖支援や女性たちや障がいのある子どもたちによるハンディクラフト商品の製造・販売支援、子どもたちへの衣類・学用品の支援を行っています。組合員に呼びかけて集まったジャージ類をすべて被災地の子どもたちに渡すことができました。これからも、被災地の声に耳を傾け、現地で橋渡しをしてくれる人や団体と連携して、必要な支援を行っていきます。



グリーンコープ生協さが
理事長
柳川 晶子

母親になったことをきっかけに組合員になり、毎週カタログ注文するだけの私でした。友だちに誘われ、たまたま行ってみた組合員交流会。さらに、誘われるままに活動組合員に。その時から、家事育児だけだった毎日が変わりました。商品について学習したり、メーカーや生産者と出会ったり、視察や工場見学など、新しい発見ばかりでした。活動中は、託児もあり、同じような思いの仲間と楽しく語り合う、自分の自由な時間も持てました。知れば知るほど、どんどんグリーンコープが大好きになりました。そして、今では「家事よりも楽しい組合員活動!」と、充実したワクワクする毎日を過ごしています。

2017年7月 シャボン玉月間ポスター募集

～せっけん運動ネットワーク～

募集要項

でき上がり寸法: A3(横29.7cm 縦42cm)
色: カラー(紙またはデータ(PDF))

必ず入れる文字: 「きれいな地球は、きれいな水から
せっけんでつくる未来」
(2017年キャッチコピー)

内容: 「せっけんを使う暮らしの提案」,
「水環境保全についての提案」など
※裏面に住所、氏名、電話番号、所属生協名を明記する

締切り: 2017年2月下旬(詳細は所属生協へお問い合わせください)
送り先: 所属生協にお届けください(配達時に手渡しまたは郵送で)
賞金: 3万円(採用作品のみ)

2016年度 fromネグロスクリスマスカンパ

カンパ総額 **4,558,800円**

ご協力ありがとうございました

30年程前、砂糖の国際価格が暴落してフィリピン・ネグロス島が飢餓の島になった時に、緊急カンパに取り組んだ「すべてのいのちを守りたい」という組合員の願いは受け継がれ、ネグロスからアジアの各地へと広がっています。集められたカンパは*APLAをとおしてアジアの人々の自立に役立てられます。
*アジアでの「農を軸とした地域づくり」を目指し、出会いや交流の場の創造をすすめるNPO法人



個性をみかけば誰もが主役



チャンチャン劇団

代表 神田美栄子さん

●プロフィール
北九州市在住。
北九州市立八幡特別支援学校 教諭



本番さながらに衣装を身に付けた練習風景。左端が神田さん



2016年12月17・18日に行われた第24回定期公演のポスターより



公演本番の舞台に立つ団員たち

チャンチャン劇団(以下、劇団)は、1993年7月に北九州市で発足した。団員は12歳以上の知的障がいのある人たち。自閉症やダウン症など個性豊かな36人が現在活動している。年1回の地元での定期公演をはじめ、日本各地からの依頼公演や自主公演、さらに韓国や台湾、グアムへと活躍の場を広げ、積極的に社会参加している。

毎週金曜日の練習には、それぞれに学校や仕事を終えた団員が、家族やサポーターたちと共に集まる。11月半ばのこの日も、翌月に開催する24回目の定期公演に向けて、実際に舞台の上で通し稽古が行われていた。団員たちは衣装に着替え、小道具も準備して本番さながらに練習に臨む。演出を担う神田さんは、台本を手に役を演じる一人ひとりに熱く語りかける。時に機を飛ばしながら、体当たりで団員たちと向かい合う。

劇団誕生のきっかけは、今から25年前。神田さんが特別支援学校の教師となつて数年経った頃だった。「まだ多くの人が、障がい者は援助を必要とするだけの人だと考えていたように思います。障がいのある人が社会で活躍できる場も少なかったです」と振り返る。神田さんが受け持つ生徒たちは、決して援助を受けるだけではなかった。何事にも一所懸命取り組む力、自らの思いを発信する力を持つていた。神田さんは、「生徒たちには将来ぜひ社会の一員として輝いてほしい。彼らの魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」と考えた。

障がいの状況がさまざまに違う生徒たちが皆でできることは何か、神田さんがたどり着いたのが演劇だった。神田さん自身に演劇の経験は全くなかったが、生徒たちと共に取り組んだ練習の成果を地域の人々へ披露すると、多くのお年寄りが涙を流して喜んでくれた。「思い切つてやってみよう」と思いました。活き活きと演技する生徒たちの姿に、障がいがあつても自ら発信して社会に貢献できることがあると神田さんは実感した。



団員と共に歌い踊りながら演出する神田さん(左)

より多くの幅広い年齢の人が演劇にかかわれるようにしたいと考えた神田さんは、地域の活動として演劇を行うことを思い立つ。有志を募ると19組の元気の親子が手を挙げた。職場の同僚たちも裏方を担うスタッフとして加わり、チャンチャン劇団が誕生した。その年の12月に行った初公演の演目はグリム童話の「こびとくつや」。その後数年間は、誰もが

を創り出す。それから場面を設定し、ストーリーを展開させていく。さらに音楽や小道具、照明などを効果的に加えることで、楽しくユニークな演出が生まれた。「私たちが伝えたいテーマは、役を演じる人そのもの。『個性をみかけば誰もが主役』が信条です。個性を發揮し、活き活きと輝く団員たちの魅力をもっと多くの方に知っていただきたいという思いで、舞台づくりをすすめています。それぞれの役を精一杯演じる姿が観る人の心を捉え、年末の定期公演では700近くの席が2日間とも満席となる。

投稿コーナー

私の好きなグリーンコープ商品

☘ コーヒー大福(冷凍)

私の好きなグリーンコープ商品は、冷凍の「コーヒー大福」です。半解凍くらいで食べると、お餅部分は、いいくらいの柔らかさで、中はアイスのような感じで、「旨〜!」の一言です。大人はブラックコーヒー、子どもは牛乳とで相性がよく、大人も子どもも楽しめる一品だと思っています。もうちょっと食べたいと思う大きさに飽きないため、私は、見つける度に注文してしまうという繰り返しです。毎週企画があればいいないつも思っています。

グリーンコープ生協(島根) もり蔵 (ペンネーム)



投稿募集中

私の好きなグリーンコープ商品

●250字程度
●バ切り毎月末
●住所氏名、年齢、Eメール、所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでも送ってください。
掲載分にはグリーンコープ商品券(500円)をプレゼントします。
●住所、氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。
〒812-8566
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
博多大通ビルディング3F
グリーンコープコミュニケーション
ワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部宛
FAX 092-4811-7876
Eメールアドレス
rikho@greencoop.or.jp

Vol.49
グリーンコープの
イチオシ!



(17g×5袋)



温めたびん牛乳で溶くと、よりミルクィでコクのある味わいが楽しめます！栄養価もアップしてお子さんや年配の方にもおすすめです！



北海道産コーンの甘みたっぷり
カップコーンスープ

原料の美味しさそのままに

スイートコーンパウダーは北海道産コーンを100%使用し、味のベースになるチキンエキスパウダーの原料も国産を追求しました。一般のコーンスープに使われている化学調味料や香料、酸化防止剤など、不要な添加物は一切使用せず、とろみを出すための増粘剤も使わずにさらりとしたスープに仕上げました。うきみ(乾燥コーン)の食感がアクセントになっています。

グリーンコープには、お湯を注ぐだけで食べられる手軽で美味しいスープ類が、バラエティ豊かに揃っています。子どもから大人まで好まれるコーンスープが、カタログGREEN43号(1月16日週配達)から新登場しました。北海道産コーン100%。自然な甘みと風味を活かして、より手作りに近いスープに仕上げています。忙しい朝の食卓に、軽食や夜食、お弁当のおともにもおすすめです。

グリーンコープと市販品の原料の比較	
グリーンコープ	一般(市販品)の例
スイートコーンパウダー、脱脂粉乳、砂糖、食塩、チキンエキスパウダー、酵母エキス、乾燥マッシュポテト、うきみ(乾燥コーン) (一部に乳成分・鶏肉を含む)	スイートコーン、ホエイパウダー、砂糖、乳糖、食塩、植物油、デキストリン、グルコースシロップ、チキンエキス、香辛料、チキンオイル、増粘剤(加工でん粉、グァーガム)、調味料(アミノ酸等)、香料、酸化防止剤(ビタミンE、ビタミンC)、着色料(ビタミンB2)

一般にはいろいろな添加物が使われています。

遺伝子組み換えが心配な輸入トウモロコシ

食料自給率が40%を下回る日本は、世界最大の遺伝子組み換え作物(GMO)輸入国。原料としての使用も含めて、トウモロコシ由来の食品の70%以上がGMOです。グリーンコープは、食の安全や生物多様性を脅かすGMOに反対し、加工食品の原料も可能な限りnon-GMO(遺伝子組み換えでない)を追求しています。一般のコーンスープでは使われている原料がGMOだったり、食品添加物などは、GMO由来のものが多くを占めています。※遺伝子組み換えについて4・5面に詳しい記事を掲載しています。

登場が待たれていたコーンスープを開発するにあたって、まずは一般的なスープ類によく使われている化学調味料や増粘剤などの添加物について調べ、改めて、不必要な添加物を使わないことを確認しました。さらにグリーンコープにしかない美味しくて安心・安全なカップコーンスープにしたいと、納得いくまで原料の検討と試食を繰り返しました。北海道産コーンを使い、味にもこだわった、グリーンコープ自慢の商品です。保存食としても大活躍。たくさん利用してください。

素材と内容にとことんこだわった美味しいグリーンコープカップコーンスープできました!

共同体商品検討委員会

2016年12月の組合員数
411227人 (12/20現在)

リユース、リサイクルデータ	
2016年11月分(回収率)	
牛乳びん 回収率 97.7%	トレー 回収率 47.8%
リユースびん 回収率 70.7%	仕分け袋 回収率 11.2%

☆モールドパックの回収率は108.3%
モールドパックは使用后、そのまま次回配達時に返却してください。

フードマイレージ
2016年12月に組合員の利用によってたまったのは
6,625,552.3
CO2に換算して663トンを削減したことになります

2009年9月からの累計は、507,862,688.5ポコ

アジア民衆基金
2016年12月に組合員の利用によってたまったのは
592,708円
2009年4月からの累計は、52,375,861円

今日はどれにする?
素材のよさを活かし、手軽で美味しい!
バラエティ豊かなグリーンコープのスープ類

他にもいろいろあるヨ!

- 豚汁**
産直豚肉と国産の野菜(ごぼう・人参・ねぎ・大根・椎茸)を使用
- たまごスープ**
産直たまごとお冷凍ほうれん草、椎茸などを使用
- オニオンスープ**
炒めた国産玉ねぎの食感と旨みを活かしたスープ
- もずくのお吸いもの**
沖縄県産のもずくと、昆布、かつお、椎茸のだしをふんだんに使用
- つぶつぶまいたけポターージュ**
クリーミーな、きのこ入りポターージュスープ

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

Table with columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法 (Ge/Nal), 検査結果 (検出せず), 検査結果 (Bq/kg), 検査結果 (Bq/kg), 検査結果 (Bq/kg), 検査結果 (Bq/kg). Rows list various food items like seafood, soy products, and grains with their respective testing results.

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

Table with columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法 (Ge/Nal), ヨウ素-131, セシウム-134, セシウム-137. It lists various food products and their radiation test results.

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

Table with columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法, 検査結果, 検出限界値, etc. It lists various food products and their radiation test results.

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています

●放射性セシウムの基準値について

2012年4月からの国の基準は、一般食品100ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳50ベクレル/kg、飲料水10ベクレル/kg以下です。

グリーンコープは取り扱うすべての商品や原料について10ベクレル/kgを自主基準とし、10ベクレル/kg以上の数値が出た場合、共同体理事会に報告し、取り扱いについて検討・決定することになっています。

●グリーンコープでの放射能検査内容と報告について

検査対象 グリーンコープでは、商品や原料について放射能汚染が心配される地域は関東から東北地方エリアが中心であるものの、必ずしもエリアを限定して考えるべきではないという判断で、また利用される組合員の心配に対応するためにも検査対象を全国に広げています。また外国産の食品も検査対象にしています。

検査対象 2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関 2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室（福岡市）で検査を開始しました。

検査日 検体を測定した日を記入しています。

検査結果 ヨウ素131とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。検出限界値未満の結果については「検出せず」と表記します。「検出限界値」とは、測定において検出できる最小値のことをいいます。放射能の特性として、同じ機器で測定しても検体ごとに検出限界値は変動します。
※検出限界値未満とは、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があるということです。厚生労働省から2011年9月29日付で、検出限界値未満の結果については、測定によって得られた検出限界値を表示するよう通知が出されており、国や自治体から公表される検査結果には、検出限界値が表示されるようになりました。